様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ４ 月 ２５ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０３５６

研究課題名（和文）パスカルとモンテーニュの人間学および『ポール=ロワイヤル論理学』の研究

研究課題名（英文）Study of the anthropology of Pascal and Montaigne, as well as of "La Logique de Port-Royal"

研究代表者
山上　浩嗣（YAMAJO, Hirotsugu）

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０３１３１７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、日本語書籍『パスカルと身体の生』と『パスカル『パンセ』を楽しむ――名句案内40章』を刊行した。また、パスカルの政治思想における善と悪を明らかにした。第二に、モンテーニュ『エセー』に関する入門書『寝るまえ５分のモンテーニュ　「エセー」入門』を翻訳し、「気晴らし」という主題をめぐるパスカルとモンテーニュの思想の違いについて明らかにした。第三に、『ポール=ロワイヤル論理学』の新たな校訂版に基づいて翻訳・注解の作業を進めた（作業は未完である）。

研究成果の概要（英文）：First, I published two Japanese books: 'Pascal et la vie terrestre' and 'Le Plaisir des Pensees de Pascal', and an article in French: 'Good and Evil in the Political Thought of Pascal'. Secondly, interested in the influence of Montaigne on Pascal, I tried to highlight the contrast between the idea of 'divertissement' and 'diversion' in the two authors. Thirdly, I have begun the translation of the 'Logique de Port-Royal' based on the recent edition of Dominique Descotes.

研究分野：人文学

キーワード：パスカル　『パンセ』　モンテーニュ　『エセー』　『ポール=ロワイヤル論理学』　アントワーヌ・アルノー　ピエール・ニコル　気晴らし

１．研究開始当初の背景

ブレーズ・パスカル（1623-1662 年）の活動は多分野に及ぶ。未完の著作「キリスト教護教論」の準備メモを収める遺稿集『パンセ』には、犀利かつ具体的な人間観察、神学的考察、哲学批判、政治論・共同体論、そして修辞論・文体論までもが含まれている。本研究課題の言う「人間学」とは、このような多様な活動の総体を指示する（パスカルは『パンセ』の一断章で、自身の目標を若年時に専心した科学研究と対置して「人間の研究」と位置づけている）。

申請者はこれまで、彼の人間学において人間の此岸的生のもつ意義について研究を行い、2010 年２月、その成果によってパリ=ソルボンヌ大学から博士号を授与された（学位論文「パスカルと地上の生—『キリスト教護教論』における＜身体＞の認識論、存在論、価値論」[フランス語]）。本論においてはとりわけ、パスカルの「身体」corps の観念の両義性に注目し、パスカルの考える「信」の状態が、教義上は低い価値を与えられる「身体」の存在を必要不可欠なものとして要請するという逆説を、彼の枢要な思想をなす諸概念（「愛」「習慣」「直感」「賭け」など）の検討によって説明しようと試みた。この研究によって申請者は、原罪による人間の本性の堕落、救済の他力性を強調するパスカルの悲観主義的側面とは異なる、いわばユマニスト的な一面に光を当てることができたと考えている。「賭け」の断章などにうかがわれる彼岸への志向性の一方で、パスカルは人間の「身体」を伴う地上の生の理想のあり方を説いていると言えるのである。

しかし、長年に及ぶ上記研究の過程で、申請者が今後取り組むべき課題も明らかになってきた。世界のパスカル研究はこの十数年の間に飛躍的な進歩を遂げた。そのような新たな研究の主たる方向性は、①パスカル人間学の総合的再構築のための『パンセ』草稿資料の活用（D・デコットの『パンセ』草稿画像電子化の試み[http://www.penseesdepascal.fr にて公開中]、L・シュジーニ『パスカルのエクリチュール』2006 年）、②パスカルの思想とルネサンス思想との関連の探究（H・ミション『＜心の秩序＞—パスカル「パンセ」における哲学、神学、神秘思想』1996 年）、③ジャンセニスム運動およびポール=ロワイヤルの歴史と思想の研究（ポール=ロワイヤル学会機関誌『ポール=ロワイヤル年報』、J・ルソニエ／A・マッケンナ監修『ポール=ロワイヤル大辞典』2004 年、御園敬介『ジャンセニスムと反ジャンセニスム—近世フランスにおける宗教と政治』2009 年［クレルモン=フェラン第二大学博士論文]）、にある。申請者は、自身の研究の過程でこうした新たな動向の成果から多大な恩恵を得たが、それらの研究が扱う問題系にみずから積極的に取り組むことはできなかった。

以上の反省に立ち、申請者は過去３年間（2011～2013 年度）にわたり、科学研究費補助金・基盤(C)を得て、研究課題「パスカルの人間学およびその起源と影響の研究」に取り組んできた。この研究は上記パスカル研究の三大動向に即して進められ、その成果を、上記博士論文の単著としての刊行(2012 年)、学術論文５篇（「パスカルと三つの無知」[2013 年]、「一七世紀パリにおける宗教と政治—ジャンセニスムとパスカル」[2012 年]ほか)、ラ・ボエシ『自発的隷従論』翻訳書の刊行（2013 年)、および６回の口頭発表という形で世に問うことができた。

２．研究の目的

本研究課題「パスカルとモンテーニュの人間学および『ポール=ロワイヤル論理学』の研究」は、上の研究を発展的に継承するものであり、その方向性は、次の三つに求められる。すなわち、１）パスカルの人間学を、『パンセ』の草稿資料をも用いて、彼自身のテクストに即して総合的に考究すること、２）パスカルの人間学の「起源」の局面を、とりわけモンテーニュからの影響を通じて検討すること、３）パスカルの人間学の「影響」の諸相を、アルノーとニコルの著『ポール=ロワイヤル論理学』の精読を通じて考察すること、である。

３．研究の方法

１）パスカル人間学の研究

パスカル人間学全体に関わる申請者独自の見解は、上掲の博士論文において提示できたと考えている。そこで次に、まずは本論文の日本語版『パスカルと身体の生』を公刊する（大阪大学出版会)。その際、原著論文で言及したさまざまなテクストのより精緻な分析と理解のために、『パンセ』草稿資料および、D・デコットらによる『パンセ』研究サイト（上述）を活用する。

その他、『パンセ』をめぐるさまざまな問題点について、多様な形（論文、エッセー、解説）で積極的に研究発表を行う。

２）パスカルとモンテーニュの影響関係の研究

パスカルはとくに『パンセ』の人間論全体においてモンテーニュから多大な影響を受けている。にもかかわらず、両者の関係についての研究は進展しているとは言いがたい（L・ブランシュヴィック『モンテーニュの読者、デカルトとパスカル』1944 年、前田陽一『パスカルとモンテーニュとのキリスト教弁証論』1949 年、B・クロケット『パスカルとモンテーニュ』1979 年、以来注目すべき論考は皆無である)。ルネサンス思想のパスカルによる受容についての研究が注目を集める現状において(H・ミション、上掲書)、

この課題の重要性については言をまたない。申請者は主として、政治、修辞、学問、認識をめぐる二人の対立的な思想について考察を進める（上記拙論「パスカルと三つの無知」および口頭発表「モンテーニュのパイデイア—書物と旅による「判断」の形成」[2013 年] はその予備的検討を含んでいる）。

３）『ポール=ロワイヤル論理学』の翻訳・注解

近年におけるジャンセニスム運動およびポール=ロワイヤル修道院の多方面からの研究の進展は、パスカル研究にも多大な貢献を果たした。このような研究動向に即した課題として、アルノーとニコルによる『論理学あるいは思考の技術』（別名『ポール=ロワイヤル論理学』）に対するパスカル思想の影響の考察に着手する。本書については、2011 年に、新たにD・デコットによる批評校訂版が刊行された（Antoine Arnauld et Pierre Nicole, *La Logique, ou l'art de penser*, éd. Dominique Descotes, Paris, Honoré Champion, 2011）。本作の諸版の変遷をたどり、綿密な注釈を施した決定版である。申請者は、本版に基づいて『ポール=ロワイヤル論理学』の翻訳・注解に取り組む。

４．研究成果

上記三つの研究の方向性に即して記す。

１）パスカル人間学の研究

①私の博士論文（パリ=ソルボンヌ大学、2010 年 2 月公開審査に合格）の３分の２程度の内容を翻訳し、大幅な改訂を施した著書『パスカルと身体の生』を刊行した（大阪大学出版会、2014 年 9 月、336 頁）。

②韓国のフランス語フランス文学会の「フランス文学における悪」と題された国際シンポジウム（亜洲大学）に招かれ、「パスカルの政治思想における善と悪」（フランス語）という主題で発表した（2014 年 12 月）。

③野呂康氏（岡山大学）が企画した大規模な研究会「＜表象＞のパスカル——パスカル学への新たな寄与の試み」の第１回公開研究会にて、「パスカルと動物の魂——動物機械論と『パンセ』」と題する研究発表を行った（2015 年 7 月）。

④論文「ヴォルテールのパスカル批判」を『ガリア』第 55 号に掲載した（2016 年 3 月）。

⑤単著『パスカル『パンセ』を楽しむ——名句案内 40 章』（講談社学術文庫）を刊行した。入門書の体裁ではあるが、『パンセ』の読解に関する新知見を盛り込んだつもりである（2016 年 10 月）。

２）パスカルとモンテーニュの影響関係の研究

①モンテーニュ思想の読解に取り組む過程で、アントワーヌ・コンパニョン（コレージュ・ド・フランス教授）による『エセー』解説書『モンテーニュと過ごす夏』（原文フランス語）の翻訳書を刊行した（邦題『寝るまえ５分のモンテーニュ　「エセー」入門』白水社、宮下志朗との共訳、2014 年 11 月）。

②京都大学人文科学研究所「環世界の人文学——生きもの・なりわい・わざ」研究班（大浦康介班長）の例会に招かれ、「モンテーニュ、デカルトの動物論とパスカル」と題する研究発表を行った（2015 年 10 月）。

③ジャンニ・パガニーニ教授（ピエモンテ大学）が 2015 年３月に来日したときの講演「モンテーニュと近代懐疑主義」の講演原稿を『思想』第 1098 号（岩波書店）に掲載した（2015 年 10 月）。

④私が主宰する「フランス近世の＜知脈＞」研究会の第２回定例研究会にて、「パスカルの「気晴らし」（divertissement）とモンテーニュの「気をそらすこと」（diversion）という題で発表した（2016 年７月）。また、同内容を、関西シェイクスピア研究会例会の特別講演でも披露した（2016 年 12 月）。

３）『ポール=ロワイヤル論理学』の翻訳・注解

D・デコットによる『ポール=ロワイヤル論理学』の最新校訂版（Paris, Honoré Champion, 2011）に依拠して、いくつかの主要な章の翻訳・注解作業に取り組んだが、まだ全体の５分の１程度しか進められていない。今後も作業を継続することにしたい。

４）その他

①『デカルト全書簡集』第３巻（知泉書館、2015 年刊）の翻訳の一部を担当した。

②「ディドロ『サロン』抄訳」（１）、（２）を『大阪大学大学院文学研究科紀要』第 56 巻（2016 年３月）、57 巻（2017 年３月）に発表した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

1)【翻訳】「ディドロ『サロン』 抄訳（２）」、<u>山上浩嗣</u>、『大阪大学大学院文学研究科紀要』57 巻、大阪大学大学院文学研究科、pp. 35-96、2016 年 3 月。

2)【著書】『パスカル『パンセ』を楽しむ——名句案内 40 章』、<u>山上浩嗣</u>、講談社学術文庫、272p.、2016 年 11 月。

3)【翻訳】ベネディクト・ゴリヨ「現代フランス文学におけるギリシア=ラテン文学の遺産」、<u>山上浩嗣</u>訳、『文学』17 巻 5 号（2016 年 9,10 月号）、岩波書店、pp. 215-239、2016 年 9 月。

4)【口頭発表】「パスカルの「気晴らし」（divertissement）とモンテーニュの「気をそらすこと」（diversion）」、<u>山上浩嗣</u>、「フランス近世の〈知脈〉」第２回研究会、大阪

大学豊中キャンパス、2016 年 7 月 16 日 。
5)【論文】「ヴォルテールのパスカル批判」、山上浩嗣、『ガリア』55 号、大阪大学フランス語フランス文学会、pp. 25-34、2016 年 3 月、査読あり。
6)【翻訳】「ディドロ『サロン』 抄訳（1）」、山上浩嗣、『大阪大学大学院文学研究科紀要』56 巻、大阪大学大学院文学研究科、pp. 61-98、2016 年 3 月。
7)【書評】「嶋中博章『太陽王時代のメモワール作者たち――政治・文学・歴史記述』（吉田書店、2014 年２月刊）」、山上浩嗣、『西洋史学』257 号、日本西洋史学会、pp. 74-76、2016 年 1 月。
8)【口頭発表】「モンテーニュ、デカルトの動物論とパスカル」、山上浩嗣、京都大学人文科学研究所「環世界の人文学――生きもの・なりわい・わざ」研究班（大浦康介班長）例会、京都大学人文科学研究所、2015 年 10 月５日。
9)【翻訳】ジャンニ・パガニーニ「モンテーニュと近代懐疑主義」、山上浩嗣訳、『思想』1098 号（2015 年 10 月号）、岩波書店、pp. 7-24、2015 年９月。
10)【口頭発表】「パスカルと動物の魂――動物機械論と『パンセ』」、山上浩嗣、「＜表象＞のパスカル――パスカル学への新たな寄与の試み」第１回研究会、大阪大学豊中キャンパス、2015 年７月 25 日。
11)【口頭発表】「ヴォルテールのパスカル批判」、山上浩嗣、第 76 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会、赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」、大阪大学豊中キャンパス、2015 年３月７日。
12)【翻訳】『デカルト全書簡集』第３巻、武田裕紀・香川知晶・安西なつめ・小沢明也・曽我千亜紀・野々村梓・東慎一郎・三浦伸夫・山上浩嗣・Claire Fauvergue 訳（山上担当： pp. 5-8, 29-32, 147-148, 174-175, 219-222, 225-228, 249-252, 272-275, 278-280, 285-296, 315-317, 321-329）、知泉書館、2015 年２月。
13)【論文】« Le bien et le mal dans la pensée politique de Pascal », Hirotsugu YAMAJO, in *Revue d'Études Francophones*, n° 24, 2014, Centre de Recherches sur la Francophonie, Université Nationale de Séoul, pp. 347-372, 2014 年 12 月、査読あり。
14)【口頭発表】« Le bien et le mal dans la pensée politique de Pascal », Hirotsugu YAMAJO, Colloque annuel d'hiver 2014 : « Le mal dans la Littérature française », Société Coréenne de Langue et Littérature Françaises, Université Ajou, Corée, 2014 年 12 月６日。
15)【講演】« La dignité de l'homme selon Pascal : du divertissement au pari », Hirotsugu YAMAJO, Séminaire de M. Young-Mock LEE, Université Nationale de Séoul, 2014 年 12 月３日。
16)【翻訳】アントワーヌ・コンパニョン『寝るまえ５分のモンテーニュ――「エセー」入門』、山上浩嗣・宮下志朗訳、白水社、2014 年 11 月。
17)【講演】「モンテーニュとパスカル――現世のあり方と宗教」、山上浩嗣、CAF 日仏文化講座「＜生きる＞ フランス流」、神戸国際会館、2014 年 11 月 11 日。
18)【著書】『パスカルと身体の生』、山上浩嗣、大阪大学出版会、336p.、2014 年９月。
19)【口頭発表】「ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相」、山上浩嗣、第 75 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会、大阪大学豊中キャンパス、2014 年９月 27 日。
20)【口頭発表】「モンテーニュの旅と「気をそらすこと」」、山上浩嗣、平成 25 年度大阪大学文学研究科共同研究「西欧近代における旅と風景のディスクール」研究会、北海学園大学、2014 年３月４日。
21)【論文】「ラ・ボエシ『自発的隷従論』における「友愛」の諸相」、山上浩嗣、『待兼山論叢』（大阪大学大学院文学研究科）第 47 号、pp. 1-18、2014 年１月、査読なし。

〔雑誌論文〕（計 8 件、うち翻訳 4 件、書評 1 件）

〔学会発表〕（計 9 件、うち講演 2 件）

〔図書〕（計 4 件、うち翻訳［共訳］2 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
・Researchmap
http://researchmap.jp/read0208333/

・大阪大学研究者総覧
http://www.dma.jim.osaka-u.ac.jp/view?l=ja&u=3208

６．研究組織
(1)研究代表者
山上　浩嗣（YAMAJO, Hirotsugu）
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：４０３１３１７６

(2)研究分担者
(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：

(4)研究協力者
(　　)